

# いざ! に備えて ライフラインを確保した家

Part 1 岩手県・小野寺さんのお宅



千坪を超える広い敷地に建つポスト&ビームのログハウス。漆喰と板張りのバランスが絶妙で民家のたたずまいを思わせる。



右●床暖房と暖炉で北国の冬も快適そのもの。4匹の猫たちも家族と一緒に寒さ知らずでのびのび暮らす。左●玄関の三和土にも暖房が施されているので、訪れる人を温かく迎えることができる。

盛岡出身のご主人は関西・西宮での暮らしから花巻の地にJターンし、7年目にマイホームを建てました。自然志向のご夫妻は化学物質や新建材を使わない木の家を希望。たまたま「のふうぞ」のパンフレットで見た戸田さんの家づくりが、合板やベニヤ、合成塗料など一切使わず、国産丸太を中心に無垢の木だけで建てる家だったので迷わず決めたそうです。見学会に参加するなどして、建てる家のカタチを具体化して行く時も「マンガみたいな間取り図を描いて説明しただけ。ここはあんな雰囲気と言えばツアーカーでわかってもらえたから、こちらの決断が必要な箇所だけ相談しながら決めました」とのこと。

さて、小野寺さんの家づくりのポリシーは「ライフラインの確立」です。ご一家は、あの阪神大震災を経験しました。家の中はめっちゃめちゃ、何より水道が使えなくなったのは困惑したとのこと。飲み水はないし、トイレもお風呂もダメという危機的状況でした。そこで、この家は水道に頼らず井戸を掘り、下水道も個別の合併浄化槽を設けました。床暖房も暖炉の熱を利用してできるシステムにしたのは、暖房機能だけでなく煮炊きができるので、いざという時に活躍が期待できるからでした。

こうして、家族4人と猫4匹の安心で快適な住まいが完成しました。あとは広い庭に畑をつくったり、ご主人の天体観測小屋を建てたり、楽しい計画がいっぱいだそうです。



### 建築途上の小野寺邸

左●国産丸太中心の軸組工法の家は、木の切り出しから加工造作に至るまで「のふうぞ」のスタッフが一貫して行うから、年に2棟しか受注しない。ようやく完成間近の小野寺邸。右●床全体に銅版のパネルを敷き詰める低温水式の床暖房。この後、床仕上げをすれば工事完成。



2階、ご主人の書斎と次女の勉強部屋+寝室。天窗からの光が明るく、夜は満天の星(ちなみにご主人の趣味は天体観測)。ベッドの向こうは吹き抜け。



リビングからダイニング、キッチンを見る。太い丸太を現した吹き抜けからは2階にいる家族の気配が伝わるオープンなつくり。カウンター前の丸太の椅子が楽しい。

## この暖炉は災害時の心強い味方

暖炉で暖房は勿論、お風呂の追い炊きや給湯やシャワーのお湯がつけられ、その上調理ができるので災害時にも安心

#### DATA

家族構成●夫婦+子供2人  
 1階面積●86.12㎡(26.04坪)  
 2階面積●53.00㎡(16.03坪)  
 延床面積●139.12㎡(42.07坪)  
 構造●丸太ポスト&ビーム工法  
 竣工●2006年12月  
 床暖房●夜間電力利用システム+フレームアート(暖炉)  
 富士プラント・アルコ株

設計・施工

のふうぞ(野風備)設計事務所/戸田 仕  
 岩手県一関市東山町長坂字久保225-14  
 Tel 0191-47-4212 Fax 0191-47-4211



ナチュラルログハウスのふうぞ  
 戸田 仕(とだ まなぶ)

1966年福岡県生まれ。85年愛農学園高校卒。ノルウェーで林業に携わった後、ログハウスメーカー勤務を経てのふうぞを設立。ナチュラルログハウスの建築を始め古民家移築再生なども行っている。



リビング続きの和室は、腰掛けられる高さに。下部は収納になっている。



カウンター裏はシンクで、窓側にも泥つき野菜が洗えるシンクを設けた。

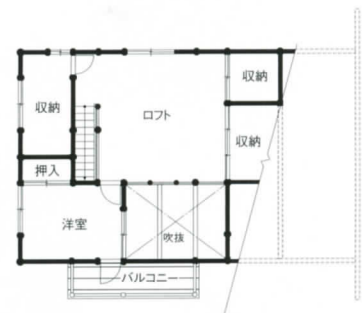


2階、長女の個室。木の香に満ちたシンプルな空間。



床暖房設置箇所

1F



2F